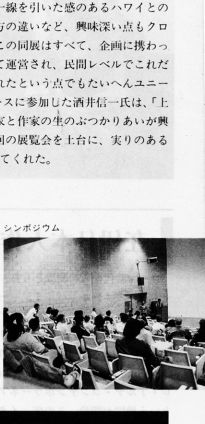
CROSSING'86; JAPAN—HAWAII
日本・ハワイ現代美術交流展

日本人がハワイに移民として迎えられるようになってちょうど100周年にあたる85年、ハワイではそれを記念する盛大な祝典が行なわれた。「CROSSING '86 JAPAN-HAWAII/現代美術交流展」は、このように、古くから親しい関係にある日本とハワイの人々の結びつきを、日本とハワイの若い芸術家たちの作品発表を通して、文化の面からより深めていこうという試みで、はじめは2～3の画廊内で行なわれる交流展としてスタートしたものが、次第に内容を深め、ついにはハワイと日本に住む90名の作家と、16のギャラリーを動員する、大がかりなプロジェクトに発展したもの。日本側の出品作家には、日比野克彦、谷口康彦といった人気イラストレーターの顔ぶれもあったが、コマーシャル・アートに対して一線を引いた感のあるハワイとの"ファイン・アート"のとらえ方の違いなど、興味深い点もクローズ・アップされた。また、この同展はすべて、企画に携わった人々の自主的な活動によって運営され、民間レベルでこれだけの大きな海外交流展がなされたという点でもたいへんユニークなもので、同展のプロデュースに参加した酒井信一氏は、「上からのおしきせではなく、作家と作家の生のぶつかりあいが興味深かった。これからも、今回の展覧会を土台に、実りのある交流を深めていきたい」と語ってくれた。

八百板力作品

シンポジウム



会場風景